

Syllabus



AICHI Medical College
for Physical and Occupational Therapy

令和6年度 シラバス

専攻科リハビリテーション科学専攻

【教養科目系】

実用英会話	1
日本文化学	2
経営学	3
学習科学概論	4
科学、社会、人間	5
法学入門	6
文章力を磨く	7
組織マネジメント	8
地域創生学	9

【基礎科目系】

臨床体表解剖学	10
病態運動・生理学	11
臨床発達障害学	12

【運動機能障害系】

運動器系障害リハビリテーション論	13
内部疾患系障害リハビリテーション論	14
スポーツ障害リハビリテーション論	15

【生活機能障害系】

中枢神経系障害リハビリテーション論	16
地域・老年期リハビリテーション論	17
精神機能系障害リハビリテーション論	18
生活環境リハビリテーション論	19

【リハビリテーション管理】

応用臨床心理学	20
医療福祉行政学	21
医療情報学	22

【リハビリテーション科学研究】

研究法演習	23
リハビリテーション科学研究Ⅰ	24
リハビリテーション科学研究Ⅱ	25

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
実用英会話	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
James Higa					
実務経験のある教員					
授業概要					
In this course students will further develop their speaking, listening, writing, and reading skills in English. このコースでは、学生は英語でのスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングのスキルをさらに伸ばします。					
学習到達目標					
In each unit, students will be taken through communication activities and exercises in the four skills (speaking, listening, writing, and reading) related to various topics. The emphasis will be on speaking and coping with different situations students might encounter or wish to discuss in English. The instructor will introduce topics to be discussed, which relate to intercultural relationships, communication and contemporary issues. 各単元では、コミュニケーション活動やさまざまなトピックに関連した4技能(話す、聞く、書く、読む)の練習を行います。生徒が遭遇する可能性のあるさまざまな状況、または英語で議論したいと考えるさまざまな状況に話し、対処することに重点が置かれます。 講師は、異文化関係、コミュニケーション、現代問題に関連した議論すべきトピックを紹介します。					
授業形態					
演習	Classes will be structured around group activities, pair work, speeches, presentations, asking and giving answers. クラスは、グループ活動、ペアワーク、スピーチ、プレゼンテーション、質問と回答を中心に構成されます。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	James	1. Orientation to the class. General information about class expectations.	Orientation to class. Self-introduce. Asking and answering general information questions about self, family, and friends.		
2	James	2. General information about oneself, family, and friends.	オリエンテーション。自己紹介、あなたに関する一般的な情報を提供する。自分自身について友達に尋ねる。		
3	James	1. Able to say numbers in English 2. Count American money 3. Telling time, months, days and years.	Numbers: counting numbers, counting money, time and dates		
4	James	4. Discuss about shopping and fashions	Shopping: What and where you shop, internet shopping (数字: 数字を数える、お金を数える、時間と日付を数える) (ショッピング: どこで何をかうか、インターネット ショッピング)		
5	James	1. Class presentation: Shopping 2. Discuss about daily routines 3. Discuss about weekend routines.	Presentation / Daily Routine Daily schedule, weekend schedule		
6	James		プレゼンテーション / 日課 毎日のスケジュール、週末のスケジュール		
7	James	1. Class presentation: Daily Routine 2. Discuss about health habits and health problems 3. Discuss about mental well being	Presentation / Health Health habits, nutrition, health and safety, diet and eating habit		
8	James	4. Discuss about good eating habits 5. eating habits	プレゼンテーション / 健康 健康習慣、栄養、健康と安全、食事と食習慣		
9	James	1. Class presentation: Health 2. Discussion about: What is culture? 3. What are traditions?	Presentation / Culture Cultural misunderstandings, preserving traditional culture, experiencing a new culture		
10	James	4. Cultural misunderstanding and differences in Japan. 5. What are "pop culture"?	プレゼンテーション / 文化 文化的な誤解、伝統文化の保存、新しい文化の体験		
11	James	1. Class presentation: Culture 2. Discuss about TV and movies in general 3. Discuss the effects of violence in TV and movies on children.	Presentation / TV and Movies Negative influence of TV, violence in TV and movies, fame		
12	James		プレゼンテーション / テレビと映画 テレビの悪影響、テレビや映画における暴力、名声		
13	James	1. Presentation: TV and movies 2. Discuss about traditional nursing home care in Japan. 3. Discuss about nursing home care quality	Presentation / Nursing Homes Nursing homes: good quality care, プレゼンテーション / 養護施設 テレビの悪影響、テレビや映画における暴力、名声		
14	James				
15	James	1. Final Project Presentation: 2. Discuss about deforestation, desertification, and what are the causes. 3. Discuss about human's	Final Project Class presentation / Nature Respecting nature, environmental problems 最終プロジェクト自然 / 性質 自然の尊重、環境問題		
成績評価の方法・基準 (100%)					
Presentations	Quizzes	Homework	Final Project		
50	20	10	20		
Presentations, Quizzes, Homework, Final Projectで評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
Students are expected to be involved during class time and complete all homework assignments in preparation for class. Students should expect to spend at least 30 to 45 minutes a week reviewing, researching and planning for class. (1コマあたりの準備学習時間: 4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
Students will be able communicate with the instructor during classes, after classes, and through a writing journal which will be given out on the first day. Feedback on presentations and test will be written in the journal as well.					
教科書					
Course materials are provided by the instructor. コース教材は講師が提供します。					
参考図書					
none					
備考: 履修者への要望					
Students should come to class prepared to discuss the issues.					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
日本文化学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
【書道】長谷川 恵也 ・ 【華道】植田 れい子					
実務経験のある教員					
授業概要					
【書道】 日本・中国の文字の形の変遷を毛筆を使って体験しながら書道文化を学習する。 【華道】 生け花の道具や花材の扱い方、基本の花型を理解しながら花をいけることを学ぶ。先人達から伝統的に受け継がれた花や現代のアレンジ花も生ける。					
学習到達目標					
【書道】 漢字の成立、書体、書風の違い、毛筆の特性を理解し、作品制作において表現方法を工夫できるようにする。 【華道】 基本の花型を理解し、花材の扱い方、花材の名前を覚え、季節の花をいけることができるようにし、生活に潤いを持たせることに役立つ。					
授業形態					
演習	【書道】 書道用具（大学側で用意する）を使い、毛筆書道の実習中心の講義 【華道】 花器など（大学側で用意する）を使い、花をいける実習中心の講義				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	長谷川	楷書を書く	楷書の様々な古典を書く		
2	長谷川	行書を書く	日本と中国の行書の古典を書く		
3	長谷川	仮名を書く	仮名の成立と字源、いろはを書く		
4	長谷川	現代文を書く	書道史の講義と現代文を書く		
5	植田	春の花、盛花、基本花型	基本花型の盛花を、資料を参考に理解し、実際にいける。		
6	植田	初夏の花、投入花、基本花型	基本花型の投入花を実際にいける。春夏秋冬の代表的な花の名前を覚える。		
7	植田	クリスマスの花、盛花	クリスマスの花をアレンジ花のポイントの説明を聞きいける。暮らしの行事（五節句等）についても学ぶ。		
8	植田	正月の花、盛花	お正月の花を盛花で実際にいける学習をする。		
成績評価の方法・基準（100%）					
(書道)筆記試験	(書道)レポート	(書道)参加貢献度	(華道)筆記試験	(華道)参加貢献度	
25	20	5	15	35	
【書道】 提出作品（50%）、レポート（40%）、授業への参加貢献度（10%） 【華道】 筆記試験（30%）、授業への参加貢献度（70%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【書道】 日本と中国の歴史（古代から平安まで）時代の流れを把握しておくこと。 【華道】 日本のくらしの行事に理解を深めて、授業に出席すること。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【書道】 課題は、講義の中で返却します。 【華道】 テスト後、返却します。					
教科書					
【書道】 「字と書の歴史」江守賢治 著（日本習字普及協会） 【華道】 資料を配布します					
参考図書					
【書道】 「マンガ書の歴史」（講談社）、「すぐわかる日本の書」可成屋 編（東京美術） 【華道】 「いけばなの要点 石田流」石田秀翠（著）社団法人石田流華道会発行					
備考：履修者への要望					
【書道】 文字の歴史と芸術書道を楽しんで下さい。日常生活の中の毛筆文字に注意して下さい。 【華道】 花は心のビタミンです。生け花は、日本の文化です。季節の花を飾って生活にうおいを持たせましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
経営学	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
坂本 桂二					
実務経験のある教員					
授業概要					
<p>これまでの医療機関経営は、様々な点で一般企業とは異なる経営が行われてきた。例えば、診療報酬自体を例にとってみても、その価格は国により定められており、一般企業のように市場原理による価格決定メカニズムが働いていません。しかし、今後は医療機関も、自費診療の拡大など、診療報酬体系にも変革が進展すると考えられます。また実際に医療機関間の競争も激化してきており、従来の方式の経営で、患者の訪れを待つという姿勢では経営が立ち行かなくなっています。こうした状況の下で、医療機関が生き残るためには、医療機関を一つの経営体として捉えて、民間の企業的な経営センスを導入することが極めて大事です。本講義では、経営学の全体像、基礎的な経営戦略論、組織論、マーケティング理論を医療機関との関係性の中で学んでいきます。</p>					
学習到達目標					
①企業経営の全体像を説明できる。②基礎的な経営戦略理論、マーケティング理論、組織理論を医療経営等実態面と関連づけて説明ができる。③また、その理論を使いながら医療機関などの経営の具体的提案ができるようになる。					
講義	講義は、対面授業を基本とし、必要に応じてリモート授業を併用します。パワーポイントを中心に講義を進めます。また、講義は、できる限り対話方式で進めます。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	坂本	経営学の全体像	オリエンテーションと経営学の体系、歴史、広がりについて学ぶ		
2	坂本	企業経営の全体像	企業を取り巻く環境、株式会社とカネ、会社機関との関係、金融市場、労働市場との関わりを学ぶ		
3	坂本	経営戦略	経営のあり方、経営戦略にかかる基本的理論と実践知識について学ぶ		
4	坂本	競争戦略のマネジメント	違い(差別化)を作り上げていくプロセス、違いを作る基本戦略、多角化戦略のマネジメントについて学ぶ		
5	坂本	マーケティングの本質	マーケティングの考え方と市場との関わり方について学ぶ		
6	坂本	サービス・マーケティング	サービス業の特性、サービス・マーケティングの考え方について学ぶ		
7	坂本	マクロ組織のマネジメント	組織の概念と見方、組織構造のバリエーションと選択について学ぶ		
8	坂本	ミクロ組織のマネジメント	組織のインセンティブ設計、リーダーシップのスタイルについて学ぶ		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	小テストまたは 小レポート	ポートフォリオ			
60	20	20			
筆記試験60% (全講義終了後実施)、小テストまたは小レポート20% (原則、各講義終了後に習熟度テストまたは小レポート提出を求め、良い5点、普通3点、悪い0点で評価)、ポートフォリオ (口頭試問) 20% (原則、予習内容、前回講義に関する口頭試問を講義開始時に実施し、良い5点、普通3点、悪い0点で評価)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
講義テーマについて、参考図書、新聞、雑誌や経済的な特集番組などから、講義内容に関連する情報を事前に収集し、学習しておくこと。また、毎回、講義資料を配布するので、講義後確りと復習し、理解を深めること。学修結果を確認するため、講義の初めに前回講義に関する口頭試問を実施。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
小テストまたは小レポートの解答は講義の中で解説します。試験の解説は、求めに応じてメール等でフィードバックします。					
教科書					
教科書は特に指定しませんが、講義は講義用プリントを毎回配布して進めます。					
参考図書					
「1からの経営学」 加護野忠男・吉村典久編著 碩学社 「ゼミナール経営学入門」 伊丹敬之、加護野忠男著 日本経済新聞出版社 「マーケティング戦略」 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著 有斐閣アルマ 「医療経営の基本と実務」 KPMGヘルスケアジャパン (株) 編著 (上巻・戦略編)					
備考：履修者への要望					
「経営学」を学ぶことは、社会全体そして人の生活に多大な影響を及ぼす企業、会社に関心を払ってもらうことにあります。また、「経営学」が生み出してきた知識は、病院、学校、行政等の経営のあり方、運営のあり方等に広く応用ができ、日ごろの仕事、サークル活動、組織運営等に活用されることを期待します。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
学習科学概論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
田中 雅章					
実務経験のある教員					
田中 雅章：教員免許更新講習の「教育方法と技術」の講師実績がある教員が、学びの科学について講義をする。					
授業概要					
本講義は教育学の理論や知見から学習の仕方の基礎を学ぶ。知識や技能の獲得は、一般的に学習と呼ばれる。アクティブラーニングなどの学習方法を深めることで、これまでの勉強の仕方を見直すきっかけとしたい。 本講義ではアクティブラーニングを実践しており、LMSとデジタルコメントシートを採用している。初回にこのシステムの操作方法について説明する。さらに相互評価システムを構築してある。相互評価の実践を行う予定である。					
学習到達目標					
①講義に積極的に参加し、主体的に幅広い視点と考え方で学習の本質をとらえる。 ②学習方法および学習科学についての基礎的・基本的な知識や考え方について説明できる。 ③新しい学び、学習方法について、正しい知識と認識をもって考えることができる。					
授業形態					
講義	本講義ではアクティブラーニングを実践しており、グループワークと受講生による相互評価を実施する。また、LMSとデジタルコメントシートを採用している。質問等の回答はLMSを通じて全員へフィードバックする。初回にこのシステムの操作方法について説明する。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	田中	授業オリエンテーション コーネル式ノート術	この講義の受講方法について授業オリエンテーションを行う。本講義で採用しているLMSとデジタルコメントシートの操作方法を説明する。大学で学ぶためのコーネル式ノート術について解説をする。：教科書 第1章		
2	田中	効率の良い文献検索	文献を検索してレジメを作る手順を体験しながら方法を理解する。：教科書 第1章		
3	田中	クラウドサービスの活用	クラウドサービスを活用したファイルの整理方法を理解する。：教科書 第1章		
4	田中	マインドマップでアイデアをまとめる	ブレインストーミングでアイデアを生み出し、KJ法で整理をする方法を理解する。：教科書 第2章		
5	田中	ブレインストーミングでアイデアをだす	ブレインストーミングでアイデアを生み出す方法を理解する。：教科書 第2章		
6	田中	KJ法でアイデアを整理する	KJ法で生み出したアイデアを整理する方法を体験し、理解を深める。：教科書 第2章		
7	田中	レポートの構成	レポートレポートの構成と序論・本論・結論の書き方を理解する。：教科書 第2章		
8	田中	プレゼンテーション用のスライドを作る	視覚的なスライドの作成方法と発表方法を理解する。：教科書 第2章		
9	田中	アンケートを作ってデータを収集する	アンケート作成方法を理解する。：教科書 第3章		
10	田中	データ収集と整理・分析	収集したデータを表計算ソフトで処理する：教科書 第3章		
11	田中	研究レポートにまとめる	分析したデータを研究レポートにまとめる。先行研究とは何かを理解する：教科書 第3章		
12	田中	課題のスライド作成	課題のスライドを作成する：教科書 第2章		
13	田中	プレゼンテーションと相互評価の実践	プレゼンテーションと相互評価の実践：教科書 第2章		
14	田中	相互評価のリフレクション	相互評価レポートを精査し、リフレクション活動を行う。：教科書 第2章		
15	田中	学習のまとめ	提出されたデジタルコメントシートを集約し受講生へフィードバックする。ポートフォリオに基づきリフレクション活動を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
コメントシート	相互評価	学習意欲			
40	30	30			
講義への参加・貢献（学習意欲・講義への参加・発表態度）（30%）、コメントシート（ポートフォリオ）（40%）、相互評価（30%）で評価する。具体的な目標や評価基準はルーブリックに基づく。初回に目標や評価基準となるルーブリック表を示す。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで授業に臨む。 （復習）授業で学修したことを振り返り、次の授業までにコメントシートに入力してオンラインで提出する。 （1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
デジタルコメントシートに記述された質問などは、LMSを通して受講生全員へフィードバックする。					
教科書					
「18歳からの「大人の学び」基礎講座」北大路書房					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
自ら学ぶ方法を身につける努力を希望する。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
科学、社会、人間	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
田中 雅章					
実務経験のある教員					
授業概要					
現代社会は高度に科学技術や情報技術の発達により、これまでのコミュニケーション方法が急速に変化している。その結果、我々に利便性と効率性をもたらした。しかし、その反面使い方を誤るとその後の人生を左右する危うさを持ち合わせている。医療従事者としての職業倫理を理解し、様々な危機管理を学ぶ。					
学習到達目標					
①現代社会において社会生活を送るために知っておくべきことを守るべきことを社会的なものの見方、考え方を学ぶ。 ②社会と人間との関わりについて、社会的リテラシーをもって考えることできる。 ③主体的、積極的に学習に参加し、課題について他者と協働して考え、医療従事者として適切に判断し行動することができる。					
授業形態					
講義	本講義ではアクティブラーニングを実践しており、グループワークと受講生による相互評価を実施する。また、LMSとデジタルコメントシートを採用している。質問等の回答はLMSを通じて全員へフィードバックする。初回にこのシステムの操作方法について説明する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	田中	授業オリエンテーション コミュニケーション	この講義の受講方法について授業オリエンテーションを行う。本講義で採用しているLMSとデジタルコメントシートの操作方法を説明する。社会生活において、コミュニケーションとはなんであるかを解説する。：教科書 第1章		
2	田中	インターフェース	コミュニケーションをとるためにインターフェースが必要になることがある。科学技術の進歩によってインターフェースがどの様に変化したかを解説する。：教科書 第2章		
3	田中	ネットワーク	現代はネットワーク社会である。社会とのかかわりとを理解する。自己と他者のコミュニケーションの理解を深める。：教科書 第3章		
4	田中	情報ネットワーク	情報通信の進歩により、コミュニケーションがどのように変わったかを考察する。：教科書 第4章		
5	田中	ネットワークの仕組み	アプリケーションの動向やメディアの融合とネットワークの拡大と観点から理解する。：教科書 第5章		
6	田中	インターネット	インターネットに接続された無数のコンピュータに蓄積された情報を得ることができる。：教科書 第6章		
7	田中	情報システム	医療業界や社会で使用されている情報システムについて解説する。：教科書 第7章		
8	田中	企業活動	企業活動や情報システムについて解説する。：教科書 第8章		
9	田中	社会基盤	社会生活を支えるインフラである情報システムについて解説する。：教科書 第9章		
10	田中	セキュリティ	患者様の個人情報や医療情報を守るためのセキュリティの仕組みについて解説する。：教科書 第10章		
11	田中	コミュニケーション	情報技術の進歩に伴いコミュニケーションの形態が変わってきた。医療従事者として守らなければならないコミュニケーションマナーについて解説する。：教科書 第11章		
12	田中	変化する社会	遠隔地医療やオンライン医療が実用化された。バリアフリーやユニバーサルデザインについて解説する。：教科書 第12章		
13	田中	危機管理	知的財産権や危機管理について解説する。：教科書 第13章		
14	田中	職業倫理	医療者としての職業倫理について解説する。事例を参考に各自でその対策を考える。：教科書 第10、13章		
15	田中	ポートフォリオの振り返り・まとめ	提出されたコメントシート（ポートフォリオ）の振り返りと抗議のまとめを行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
提出物	コメントシート	学習態度			
40	30	30			
提出物（40%）、講義への参加・貢献（学習意欲・講義への参加・発表態度）（30%）、コメントシート（ポートフォリオ）（30%）で評価する。具体的な目標や評価基準はルーブリックに基づく。初回に目標や評価基準となるルーブリック表を示す。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
（予習）次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで授業に臨む。 （復習）授業で学修したことを振り返り、次の授業までにコメントシートに入力してオンラインで提出する。 （1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
デジタルコメントシートに記述された質問などは、LMSを通して受講者全員へフィードバックする。					
教科書					
「情報と社会」 オーム社					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
科学技術の進歩で急速に変化する社会の中で、人は社会でどう関わり合うべきか。社会、情報、他者との関わり方のあるべき姿について考える。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
法学入門	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
木村 良夫・平田 健人・笹尾 菜穂子・光飛田 透子					
実務経験のある教員					
木村 良夫・平田 健人・笹尾 菜穂子・光飛田 透子：弁護士として実務経験のある教員が、法の概要および様々な法的諸問題について解説し、講義を行う。					
授業概要					
現代社会において生起している様々な法的諸問題を取り上げ、それらの法的諸問題を考えることを通して、現代社会を生きる者としての問題解決能力の習得を目指す。					
学習到達目標					
法律問題を身近に考えることができるリーガルマインドを習得する。					
授業形態					
講義	基本事項を講義の後、ディスカッションを行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	木村	私たちと法	教科書 第1章を解説し、現代社会における法の役割を考える。		
2	木村	裁判と法	教科書 第2章を解説し、現在の裁判が抱えている問題を指摘する。		
3	平田	被害者の救済と法	教科書 第7章を解説し、不法行為に関する講義を行う。		
4	平田	医療と法→医療過誤	教科書 第11章-1を解説し、医療過誤に関連する法的知識の講義を行う。		
5	平田	生命理論の問題	教科書 第11章-2を解説し、生命倫理に関連する法的知識の講義を行う。		
6	平田	情報と法→マスコミと法	教科書 第9章-1を解説し、報道の自由に関する憲法の考え方と判例について、講義を行う。		
7	平田	情報と法	教科書第9章-2を解説し、情報公開及び個人情報保護に関連する憲法の考え方と判例について、講義を行う。		
8	平田	環境の法	教科書第8章を解説し、環境問題に関連する法的知識の講義を行う。		
9	笹尾	労働と生活の保障	今後、働くみなさんは、労働者としてどのような権利を有しているのか、権利を保障する法の概要について講義します。また、格差社会のなかの生活の保障についても触れます。		
10	笹尾	教育の法	大学で行われている様々な研究や講義は、いかなる保障を受けているのか、「学問の自由」について講義します。また、大学以前の教育と教育基本法の問題についても触れます。		
11	笹尾	犯罪と刑罰	今後、みなさんが裁判員として刑事司法に参加して行くにあたって基本となる概念（罪刑法定主義）について講義します。		
12	笹尾	政治参加と法	国と地方公共団体（県や市町村）の政治機構や、私たちが国民・住民としていかなる権利を有するのかについて講義します。		
13	光飛田	家庭生活と法	教科書第3章に沿って、出生から死亡するまで、私たちがどのように法と関わっているのか、また、どう関わっていくべきかを考える。家庭生活を巡る法が、時代によって、どう変化して来たのかについて考える。		
14	光飛田	消費者と法	契約自由の原則とは何か。契約自由の原則があるのに、なぜ、消費者を保護する法規制が必要なのか、その背景について、教科書第6章に沿って、考える。		
15	木村	まとめ	これまでの講義を通して受講生が考えたことを発表してもらい、それについてディスカッションし、総括とする。		
成績評価の方法・基準（100%）					
研究報告	レポート	参加貢献度			
40	30	30			
授業への参加貢献度、研究報告、レポート等 総合的に評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
1回の講義に4時間程度の予習復習を行うこと。予習は、テキストを熟読した後、新聞の社会面、政治面、経済面などから、テキストに掲載された法律問題に関する問題について考えること。疑問点があれば、講師に質問すること。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
授業終了後、返却する。					
教科書					
「私たちと法」（3訂版）平野武・平野鷹子・平野潤（著） 法律文化社					
参考図書					
テキストに引用されている法令や判例を授業内で紹介する。					
備考：履修者への要望					
報道されるニュースを法的な問題として関心をもつよう心掛けてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
文章力を磨く	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
緑川 幸成					
実務経験のある教員					
授業概要					
文章表現には単に思想や感情を伝達したり、コミュニケーションをとるための社交手段ではない。表現そのものの内に民族の歴史、あるいは社会・文化の特性を有し、さらに認識構造の原型を潜ませている人間探求の拠り所である。本講義では表現を通じて自己を見つめ、通底する普遍的人間性の追求まで進んで行きたい。					
学習到達目標					
形式的主義や常套の表現に陥ることなく、自己の生る在り様や感覚の実相に迫ることが表現を学ぶことの本来の目的である。本講義では既成の思考、紋きり型の言葉造りを相対化し、高度な次元での価値判断と言語選択能力の養成を目標とする。					
授業形態					
講義	講義形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	緑川	文章表現とは何か	表現と自己発見・自己改革との関係について学習する。		
2	緑川	文章表現の歴史	日本語表現の歴史の変遷とそお背景について学ぶ。		
3	緑川	文章表現の種類 (1)	文章に用いられる具体的な修辭法について学ぶ。		
4	緑川	文章表現の種類 (2)	修辭法の具体的な種類ついて様々な実例をもとに学ぶ。		
5	緑川	文章表現の種類 (3)	日常用いられていながら定義の曖昧な表現方法について考える。		
6	緑川	文章表現の種類 (4)	無意識に使われている表現の問題について多くの事例を見ながら学ぶ。		
7	緑川	文章表現の種類 (5)	比喩表現全体について再検討を行い、それぞれの特徴を再認識する。		
8	緑川	文章表現の種類 (6)	比喩以外の表現についてその定義と効果について学ぶ。		
9	緑川	文章表現の種類 (7)	特別な表現と考えられていないものに名称があり、独自の効果があることを学ぶ。		
10	緑川	文章表現の種類 (8)	日本に特徴的な思考と表現の関係について学ぶ。		
11	緑川	文章表現の種類 (9)	目的に応じた文章表現の形態・形式について学ぶ。		
12	緑川	文章表現の種類 (10)	テーマを明確にし、主旨を確実に伝える文章表現について理解する。		
13	緑川	表現とメディアとの関係 (1)	映像メディアと文章表現の影響関連について事例をもとに考える。		
14	緑川	表現とメディアとの関係 (2)	音楽・ネットメディアと文章表現の影響関係について様々な例に触れながら学ぶ。		
15	緑川	自己表現の必要性と目的	表現における個性とその意義について全講義を通して考える。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
筆記試験	参加貢献度				
50	50				
筆記試験・授業への参加貢献度 (100%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
毎回取り上げた表現方法について、授業内で示したもののだけでなく他の用例も自身で調べ、また実際に用いる訓練を積み、常に表現を生きたものとして捉える努力を望む。(予習・復習ともに2時間程度) (1コマあたりの準備学習時間: 4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
試験の返却方法は、講義の中で指示する。					
教科書					
「レトリック感覚」佐藤信夫 講談社学術文庫					
参考図書					
講義の中で示す。					
備考: 履修者への要望					
受け身ではなく、積極的な姿勢を望む。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
組織マネジメント	リハビリテーション科学専攻	1	選択	2単位 (15時間)	30時間
担当教員名					
山本 雅央					
実務経験のある教員					
山本 雅央：研修企業においてマネジメント及び1on1研修登壇実績、一般企業において組織環境改善の実績ある教員がその経験を活かし組織マネジメントの概論と実際のマネジメントに必要なコミュニケーションを講義・演習指導する。					
授業概要					
本講義では、病院や施設等、様々な形で受講者が所属する“組織”においてどのように自己を実現し、仕事を進めやすくするかに主眼を置いている。コーチングを基礎とした組織マネジメントを学び、現場で実践できるようなケーススタディやロールプレイを用いて学習を深める。まず組織とその資源について概要を学ぶ。特に経営資源である“人”“モノ”“金”“情報”のうち、特に“人”に起因する“関係性の質”に注目し、人の“関係性の質”が組織や人にどのような影響を及ぼすかを学習していく。後半はそのコミュニケーションの重要な要素であるコーチングについて学ぶ。コーチングは、いま「個人が学ぶスキル」から「組織改革の手段」へとその活用場が広がっている。組織改革に不可欠な要素の1つがリーダーシップであり、リーダーシップを向上させることでリーダーを起点として組織全体に働きかけ、組織改革を行うことができる。					
学習到達目標					
①コミュニケーション・スキルとしての主なコーチング・スキルについて学ぶ。②医療の現場で対患者、あるいは対職員に対してコーチング・スキルを使ってコーチングを実践できる。③組織マネジメントについて一通りの理論や用語の知識を理解し、説明ができる。④実際の業務において、コーチングも取り入れたコミュニケーション、目標設定や行動の支援ができる。					
授業形態					
講義	投影及び配布資料を用いた講義と、これに関するディスカッション・ロールプレイを行う				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山本	コーチング概論	コーチングとは/組織における人材開発のトレンドとコーチング		
2	山本	医療とコーチング	医療現場におけるコーチングとその事例		
3	山本	マネジメントとは何か	マネジメント概論（言葉の定義、由来）、近年のマネジメント理論の紹介と課題		
4	山本	マネジメント不全の傾向	具体的に起きやすいマネジメント不全のケーススタディ（KJ法実践）		
5	山本	信頼を深めるかわり方	物理的に安心感を齎す行動、環境、対話方法とセルフリーダーシップ		
6	山本	コミュニケーションのタイプ	コミュニケーションにおけるタイプ、アセスメントから見る自己と他者の理解		
7	山本	ファウンデーション	ファウンデーション（自己基盤）の理解と強化 ウェルビーイングやマインドフルネスに見る自己の整え方		
8	山本	アカウンタビリティ	アカウンタビリティの理解 リーダーとしてのアカウンタビリティ、組織のアカウンタビリティを高める		
9	山本	影響力	コーチがクライアントに与える影響・手段の種類と理解		
10	山本	戦略的質問	コーチングスキル①：質問を理解し、バリエーションを増やす		
11	山本	関心を持って聞く	コーチングスキル②：傾聴の深さ、必要性の理解とその実践		
12	山本	前向きに行動を促す フィードバック	よい行動の促進と、さらに進むための支援（Iメッセージ、プロセス承認）		
13	山本	ネガティブフィードバックを 伝える（指摘、指導）	組織をよくするために必要なフィードバックと対話（PNP法、視点の切替、ナンバリング法）		
14	山本	目標設定とその支援	本人が納得いく目標設定方法、フレームワークを用いた目標と行動への落とし込み 自身やメンバーのモチベーション低下時の支援方法		
15	山本	振り返りとまとめ	これまでの学びの整理と、今後に向けた自身の目標設定		
成績評価の方法・基準（100%）					
実技	参加貢献度	課題提出			
50	40	10			
(実技) 学んだスキルを使うことができるか (参加貢献度) ケーススタディへの取り組み姿勢、事前・事後の体験と気づきの共有					
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 職場や他のコミュニティにおいて、他者とのやり取りを観察し、自身の気づき・感じたことと、質問を用意しておきましょう。 (復習) 学んだ技法を職場や他のコミュニティに持ち帰り、実際にトレーニングをしてください。 本講義のゴールは現場で使える力を身に付けることです。したがって学んだ事を実践し、次の講義で振り返ることが基本となります。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
提出課題については、classroom等で提出いただいた書面上にフィードバックを記載し返却します					
教科書					
特になし（講義内で適宜配布します）					
参考図書					
『医療コーチング ワークブック』日本摂食嚥下リハビリテーション学会教育委員会 編集 中外医学社 http://www.chugaiigaku.jp/item/detail.php?id=2868 『リハスタッフのためのコーチング活用ガイド』出江紳一ら著 第2版 東京：医歯薬出版：2018 『チームリーダーのコーチング 基本とコツ』本間正人 Gakken 『3分間コーチ』伊藤 守、株式会社ディスカヴァー・トゥエンティワン 『ビジネス現場のコーチング活用法』桜井一紀、日経BP社					
備考：履修者への要望					
いま医療界ではコーチングが医療チームや病院組織のマネジメントだけでなく、患者ケアの一環として活用されています。特に、医療現場ではチーム医療やナラティブ・ペイスト・メディスン（対話を重視した医療）というキーワードで示される対患者、あるいはスタッフ間のコミュニケーションの重要性が増しており、コーチングの果たす役割が期待されています。特に、リハビリの領域では必須のスキルと言っても過言ではありません。本講義でコーチングを基本とした組織マネジメントをマスターして、これからのリーダーとして活躍されることを期待しています。 社会は“人とのつながり”でできています。ここではそれをスムーズにする実践的な内容ばかりです。頭で理解するだけでなく、ぜひ実生活でどんどん試して、わからないことを持ち帰って講義に参加してください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域創生学	リハビリテーション科学専攻	1	必修/選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
水谷 香織					
実務経験のある教員					
水谷 香織：参加協働型のプロジェクトの企画運営に18年の実績があるプロのファシリテーターが講師を務める。					
授業概要					
個人の生活・活動空間から地域全体に視野を広げ、様々な人が、様々な状況で、様々な思いを抱えて生活・活動していることに目を向ける。地域創生とは何かを考え、具体的なテーマについて現状を把握し、理想の未来を描き、それを実現する鍵を探る未来志向の計画作成手法を学ぶ。また、同じ組織で活動する人々や地域社会の人々と良好なコミュニケーションが図れるように、ファシリテーション、コーチング等の基礎も体験しながら学ぶ。自分と地域に向き合い、仲間や行政、企業の方々と連携しながら、自分の役割を見出し、果たすことができるようになることを期待する。					
学習到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多様な分野の方々意見交換をしながら、自分の夢と地域の人々の幸せをともに実現するビジョンを描く。 ・コミュニケーションを円滑化するファシリテーション、夢の実現を手助けするコーチングの基礎を習得する。 					
授業形態					
講義・演習	講義、ワーク、ディスカッション等を含むワークショップ形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	水谷	ガイダンス 自分と向き合う	本講義のガイダンスを行う。また、今の自分と向き合いながら、コーチングとファシリテーションの基礎を講義と演習を通じて学ぶ。		
2	水谷	地域創生とは	個人の生活・活動空間から地域全体に視野を広げ、様々な人が、様々な状況で、様々な思いを抱えて生活・活動していることに目を向ける。地域創生とは何かを考え、具体的な事例から学ぶ。		
3	水谷	自分ごととしての地域創生(1) ～適動設計(前半)～	自分と地域の現状を把握し、理想の未来を描き、それを実現する鍵を探る未来志向の問題解決プロセス(①理念設定、②案件設定、③現状把握、④来果探究<最高の未来/最悪の未来>)を学ぶ。		
4	水谷	自分ごととしての地域創生(2) ～適動設計(後半)～	自分と地域の現状を把握し、理想の未来を描き、それを実現する鍵を探る未来志向の問題解決プロセス(⑤要所解明<最高の未来を実現した鍵/最悪の未来を回避した鍵>、⑥方針設定、⑦方策探求、⑧計画探求)を学ぶ。		
5	水谷	地域創生の担い手(1)～ゴール設定とビジョニング～	適動設計で見出した自分と地域接点を意識しながら、コーチングの理論と技術を実践的に学ぶ。具体的には、自分のゴールをバランスホイール(職業、家族、健康、趣味、ファイナンス、生涯学習、地域、社会)を意識して描く。		
6	水谷	地域創生の担い手(2)～エフィカシアップとアフオメーション～	自分のゴールを実現するために、エフィカシーを上げ、アフオメーションができるようになる。加えて、地域創生の担い手としてのあり方を考える。		
7	水谷	清須市の地域創生(1)	清須市職員、まちづくり関係者等の外部の方をお招きして、清須市の地域創生について、とくに重要な課題を取り上げ、学生と一緒にグループワークを行う。		
8	水谷	清須市の地域創生(2)	各グループの成果発表と全体ディスカッションを行う。地域創生学の講義とワークをふりかえり、気づきを学びにかえる。		
成績評価の方法・基準(100%)					
参加貢献度	レポート				
80	20				
授業中のワーク、ディスカッション、ふりかえり等への参加貢献度(80%)、課題レポート(20%)					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
準備学修(情報収集、思考の整理など)に必要な時間は、毎回4時間程度。(1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
4回目の講義後、課題として、未来志向の問題解決プロセス(適動設計)についてのレポートを作成する。その内容は、2日目のワークの中で紹介いただき、教員と参加者同士で共有した上で、ディスカッションの下情報として用いる。					
教科書					
特になし					
参考図書					
「社会の合意形成読本」 水谷香織(著) パブリック・ハーツ 「和の実学」 大和信春(著) 博進堂 「集団創造化プログラム -ワークショップの可能性を探る-」 清水義晴・和田一良・居城葛明(著) 博進堂					
備考：履修者への要望					
市民、行政、企業の方々と一緒に地域創生を考える参加型の授業です。自分の未来と地域の未来を考える機会にしましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床体表解剖学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
松村 仁実					
実務経験のある教員					
松村 仁実：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、理学療法士、作業療法士に必要な運動器、神経系、血管系、胸部腹部臓器などの解剖学的基礎知識の上に、検査測定や治療などに必要な触察技術を教授する。					
授業概要					
理学療法士、作業療法士に必要な運動器、神経系、血管系、胸部腹部臓器などの解剖学的基礎知識の上に、検査測定や治療などに必要な触察技術を学ぶ。また、運動学的な観点と併せて、人体の機能や構造を立体的に理解し、臨床における評価治療技術に繋げられる力を身につける。					
学習到達目標					
①運動器を中心として、神経系、血管系、胸部腹部臓器の構造を立体的に理解する。 ②解剖学的な知識のもと、運動器を中心に臨床上の評価や治療に関わる問題点を推察することができる。 ③臨床上の評価や治療に直接関わる触察技術を身に付ける。 ④臨床場面での応用方法を考えることができる。					
授業形態					
講義	講義および実技実習によるアクティブ・ラーニングにて進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	松村	概論、骨指標	体表解剖学の意義、骨指標について学ぶ		
2	松村	上肢帯、上肢	上肢帯、上肢の体表解剖、触察技術を学ぶ		
3	松村	上肢帯、上肢			
4	松村	手、手指	手、手指の体表解剖、触察技術を学ぶ		
5	松村	下肢	下肢の体表解剖、触察技術を学ぶ		
6	松村	体幹、骨盤部周囲	体幹、骨盤部周囲の体表解剖、触察技術を学ぶ		
7	松村	体表解剖と臨床評価技術	臨床における各種検査と体表解剖との関係を学ぶ		
8	松村	まとめ	まとめ		
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	実技試験				
50	50				
実技試験（50%）、レポート（50%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業前に、臨床において触察技術の向上が治療に生かせる場面をを想定してください。 授業後には、内容を振り返り、臨床場面での応用と、触察技術の向上により可能になったことなどをまとめ、レポートを提出してください。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
実技試験は終了後に、フィードバックをします。レポートは、必要に応じて返却します。					
教科書					
解剖学成書					
参考図書					
解剖学成書・検査測定関係成書					
備考：履修者への要望					
臨床での検査測定には体表解剖学知識は必須です。確実に身につけられるように、解剖学、運動学とともに復習をしてください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
病態運動・生理学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
宮津 真寿美・長谷川 昇					
実務経験のある教員					
宮津 真寿美:医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、分子から見た神経伝達について講義する。					
長谷川 昇:県立病院(精神科)での病院薬剤師としての経験を生かし、認知症の薬物療法の基本と薬物療法の有効性、実施上のポイントなどについて解説する。					
授業概要					
人間の身体運動・動作を科学的にとらえるため、神経と骨格筋の情報伝達における病態生理学および薬物治療を学ぶ。					
学習到達目標					
①神経と骨格筋の情報伝達のしくみを、分子細胞生物学的に説明できる。 ②神経と骨格筋の連絡障害と、その病態生理学、薬理学が説明できる。					
授業形態					
講義	教科書や配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながらゼミ形式で講義を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	宮津	分子生物学概論	細胞、機能分子であるタンパク質、細胞内シグナル伝達		
2	宮津	神経と骨格筋の情報伝達①	分子から見た神経伝達		
3	宮津	神経と骨格筋の情報伝達②	分子から見た神経伝達		
4	宮津	神経と骨格筋の情報伝達③	分子から見た筋収縮		
5	長谷川	薬の動きから見た薬物治療	薬物の作用点と体内動態		
6	長谷川	病態からみた薬物治療①	神経系疾患の病態生理学と治療薬		
7	長谷川	病態からみた薬物治療②	筋・骨格系疾患の病態生理学		
8	長谷川	病態からみた薬物治療③	筋・骨格系疾患の治療薬		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
90	10				
レポート(宮津50%+長谷川40%)で評価する。参加貢献度の10%分は長谷川分で評価する。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【長谷川・宮津】講義範囲に関する生理学的知識について、予習を行うこと。 (1コマあたりの準備学習時間:4時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
【長谷川・宮津】課題・レポートは後日返却します。					
教科書					
「トータル人体解剖生理学」丸善(持っていない人は、他の生理学の本でよい)					
参考図書					
講義の中で示します。					
備考:履修者への要望					
オムニバス方式で講義する。各教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
臨床発達障害学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
多田 智美					
実務経験のある教員					
多田 智美：小児専門医療福祉機関において理学療法士として勤務した経験を有しておりその経験を生かし、支援法について理解を深められるように教授する。					
授業概要					
正常発達の理解を進めるとともに、運動障害の特異性への理解を深め治療場面での応用ができるようにする。また発達性協調運動障害を主軸とする発達障害の病態理解を深めるとともに、適切な支援指導について理解を深め臨床応用できるようにする。					
学習到達目標					
専門課程で修得した事項の再学習を行い理解を深める。					
授業形態					
講義	講義及グループ・ワークによるアクティブ・ラーニングにて、配布資料とスライドを用いて対話形式で進める				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	多田	小児リハビリテーションの実際	講義オリエンテーション 「この科目で学ぶこと」各自からのテーマ提出しディスカッション		
2	多田	正常発達の応用	正常運動発達を通じて、姿勢や運動の成立を学習する		
3	多田	発達障害児の理解と支援	狭義の発達障害について理解する（病態とその支援）		
4	多田	発達障害治療の実際①	症例提示を通じて、その実践的な関わりについてグループワークし、治療的関わりを再考する。		
5	多田	小児疾患の基礎知識	中枢性疾患及びその他の疾患についての最新の知見を学ぶ		
6	多田	ハイリスク児の理解と支援	ハイリスク新生児医療を理解する		
7	多田	発達障害治療の実際②	症例提示を通じて、その実践的な関わりについてグループワークし、治療的関わりを再考する。レポートのまとめ		
8	多田	まとめと確認小テスト			
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
80	20				
課題レポート（80%）、授業への参加貢献度（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 人間発達や発達障害に関する手持ちの書籍や資料などを学習しておくこと→事前レポートとしてA4枚程度にまとめて提出(120分程度) (復習) 授業で学んだことから日頃の臨床場面における症状と問題点の関連や統合と解釈について整理する(120分程度) (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
事前レポートや質問などについては、授業中にてその都度フィードバックを実施する					
教科書					
特に指定なし(配布資料を参照のこと)					
参考図書					
大城昌平編：リハビリテーションのための人間発達学，メディカルプレス，2014年，ISBN：978-4-944026-95-1、藪中良彦ほか編：CrossLink理学療法学テキスト「小児理学療法学」MEDICALVIEW，2020年，ISBN：978-4-7583-2007-8、他、講義の中で提示します					
備考：履修者への要望					
日頃の臨床場面での評価から治療的関わりまでの経験過程をまとめていただき、グループワークにおいてその経験値をお互いに伝え合うよう積極的に参加すること					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 単位時間	総時間数
運動器系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
齊藤 誠・宮津 真寿美・山田 南欧美					
実務経験のある教員					
齊藤 誠・宮津 真寿美・山田 南欧美：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、リハビリテーションが対象とする運動障害の原因となる筋機能障害について講義する。					
授業概要					
理学療法・作業療法と関連する運動器の研究および論文の読み方について学ぶ。					
学習到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動器に関連した論文のリサーチ・クエスチョンおよび、それに対する回答を明確にすることができる。 ・回答に対する証拠として示されているデータを読み取ることができる。 ・上記の妥当性を検討し、自分の考えを述べることができる。 					
授業形態					
講義	講義とワーク、発表				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	齊藤	論文の読み方	担当教員が運動器疾患に関する論文を紹介し、読み方の一例を示す。		
2	齊藤	論文を読む	要約の書き方の説明を受け、実際に取り組む。		
3	齊藤	発表・検討	要約の内容を発表する。		
4	齊藤		発表した論文の研究内容について議論する。		
5	宮津	運動器と研究	筋肥大に関する研究		
6	宮津	運動器と研究	筋萎縮に関する研究		
7	山田	ストレッチングと研究	ストレッチングに関する研究		
8	山田	リハビリテーション機器と研究	リハビリテーション機器に関する研究		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表				
50	50				
要約の報告 (レポート50%、発表50%)					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
研究論文の選定や要約の作成に約4時間程度は必要となる。(1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
課題は返却する。また、発表の際にフィードバックする。					
教科書					
なし。適宜資料を配布する。					
参考図書					
戸田山和久(2012)：新版 論文の教室 レポートから卒論まで NHK出版					
備考：履修者への要望					
本講義では、論文抄読を通して運動器疾患に関する研究の方法論を学習することも目的の一つである。論文の選定にも十分に時間をかけること。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
内部疾患系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
白井 晴信					
実務経験のある教員					
白井 晴信：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、学生自身が実験を行うことを通して、リハビリテーションが対象とする運動障害の原因となる筋機能障害について講義する。					
授業概要					
内部疾患は多くのリハビリテーション対象者が罹患しています。リハビリテーションにおける内部疾患の管理は、エビデンスが確立されている部分もありますが、発展途上の分野です。最新情報は常に更新され、その情報を臨床へ応用することが求められています。本講義では循環器、呼吸器疾患、糖尿病に対する疾患管理として理学療法士の役割を学びます。また、予防の視点から内部疾患に対する理学療法の役割を学びます。そして、最新の英語論文から、内部疾患系障害リハビリテーションの最新のトピックスを紹介し、臨床活動との接点を探ります。					
学習到達目標					
内部疾患に対する疾患管理としての理学療法の役割を説明できる。 予防の視点をもった内部障害の管理を説明できる。 世界の内部疾患リハビリテーションの最新のトピックスを理解し、臨床活動に役立たせることが出来る。					
授業形態					
講義	ディスカッション形式により講義を行います。講義の中でスライドやレジュメにより情報を提供します。				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	白井	循環器疾患のリハビリテーション	循環器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。		
2	白井	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患に対する理学療法について臨床疑問を抽出し考察します。		
3	白井	英文抄読	臨床疑問を基にした英語論文を読み理解します。		
4	白井	臨床疑問の整理	内部疾患に対する臨床疑問を整理します。 整理した疑問をもとに討論します		
5	白井	生活習慣病と予防	内部疾患を統合的に解釈します。 予防的視点を持った理学療法について討論します。		
6	白井	実験計画	臨床での疑問を解決するための実験計画を立案します。		
7	白井	実験	臨床での疑問を解決するために短大にある測定機器を用いて実験を行います。		
8	白井	発表	臨床での疑問および実験計画・結果について発表します。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
発表	参加				
80	20				
発表（ディスカッション、症例報告）（80%）、講義や実験への参加（20%）で評価します。 内部障害または運動生理学に関する実験計画を立て、実際にデータ測定をし発表をして頂きます。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
内部疾患に関する臨床での疑問を整理しておいてください。ディスカッションにより解決の糸口を共に探りたいと思います。 臨床の疑問を実験的研究や臨床研究に応用します。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
講義の中で討論しフィードバックします。					
教科書					
資料を配布します。					
参考図書					
講義中で提示します。					
備考：履修者への要望					
内部疾患領域におけるリハビリテーションの新たな可能性を、独創的な視点で考えましょう。					

授業科目名		専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
スポーツ障害リハビリテーション論		リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名						
鳥居 昭久						
実務経験のある教員						
鳥居 昭久：医療機関およびスポーツ分野において理学療法士として勤務経験のある教員が、スポーツ障害とそのリハビリテーションについて講義する。						
授業概要						
スポーツ外傷や障害についての基本的知識を学び、関係学会もしくは研究会への参加、文献抄読などを通して最新のスポーツ障害に対するリハビリテーション知識を身につける。						
学習到達目標						
スポーツ障害とそのリハビリテーションの最新の知見について学び、実際に臨床やフィールド場面で実践できる知識を身につける。						
授業形態						
講義	講義(実技含む) および一部演習(発表：関連学会や研究会への参加を含む場合もある)					
授 業 計 画						
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容			
1	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野の論文抄読および関係学会・研修会出席			
2	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野の論文抄読および関係学会・研修会出席			
3	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野の論文抄読および関係学会・研修会出席			
4	鳥居	最新のスポーツ障害リハビリテーション	関係分野の論文抄読および関係学会・研修会出席			
5	鳥居	スポーツ障害の基礎知識	整形外科系スポーツ障害について学ぶ 内科・婦人科系スポーツ障害について学ぶ			
6	鳥居	スポーツ障害とリハビリテーション	メディカルリハビリテーションとアスレティックリハビリテーションへの過程について学ぶ			
7	鳥居	スポーツ障害とリハビリテーション	アスレティックリハビリテーションの実際と理学療法士、作業療法士の関わりについて学ぶ			
8	鳥居	まとめ	抄読論文および学会参加報告、全体のまとめ			
成績評価の方法・基準 (100%)						
レポート	発表					
50	50					
課題論文抄読発表会(50%)、関連学会参加報告レポート(50%)						
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間						
積極的に論文収集、読解に取り組むことを望みます。 (1コマあたりの準備学習時間：4時間)						
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法						
講義の際にコメントします。						
教科書						
講義において指示します。						
参考図書						
関係成書全般						
備考：履修者への要望						
関係論文を読み、実際に臨床現場やフィールド場面に応用していくことで理論が身に付くと考えます。積極的な活動を求めます。関係学会への出席および報告レポートを必要とします。(詳細は、講義時に説明します)						

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
中枢神経系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1 後期	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
加藤 真弓 ・ 加藤 真夕美					
実務経験のある教員					
加藤 真弓：医療機関で理学療法士として勤務経験のある教員が、運動障害が生活機能障害に及ぼす影響、障害改善のための介入方法について、事例検討を通して講義を行う。					
加藤 真夕美：医療機関、介護老人保健施設で作業療法士として勤務経験のある教員が、認知機能の障害が作業遂行能力に及ぼす影響と、評価手段、治療的介入の方法について事例検討を通して講義を行う。					
授業概要					
運動障害、認知機能障害に関連する生活活動における問題点の分析と、より効率的な理学療法・作業療法を学習する。					
学習到達目標					
【加藤真弓】機能回復に関わるメカニズムを学習し、それを踏まえ身体障害と身体障害に関連した生活機能障害の分析し、リハビリテーション方法を検討することができる。					
【加藤真夕美】認知機能の障害について、それらが作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段、及び治療的介入の方法を論理的に検討することができる。					
授業形態					
講義	オムニバス形式とする。全回、講義および演習形式で行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	加藤真弓	運動障害と生活機能障害 (事例検討)	心身機能回復のメカニズム、運動障害が生活機能障害に及ぼす影響および障害改善のための介入方法について、事例を通して検討する。		
2	加藤真弓				
3	加藤真弓				
4	加藤真夕美	認知機能障害と作業遂行能力 (事例検討)	認知機能の障害が作業遂行能力に及ぼす影響と評価手段および治療的介入の方法について、事例を通して検討する。		
5	加藤真夕美				
6	加藤真夕美				
7	加藤真弓	運動障害と生活機能障害 (文献抄読)	提示された事例に関連する文献を収集し、文献抄読会を行うことによって、事例に対する検討を深める。		
8	加藤真夕美	認知機能障害と作業遂行能力 (文献抄読)			
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	発表	参加貢献度			
30	30	40			
レポート作成 (30%)、口述発表 (30%)、授業中の発言 (40%) で評価します。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【p加藤・o加藤】対応方法に課題を抱えている臨床事例についてレポート(パワーポイントでの作成も可)にまとめて頂きます。また事例に関連する文献レビューを行って頂きます。(1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
【p加藤・o加藤】第1～6回の授業内で事例紹介レポートや文献レビュー内容に関して、意見交換を通して検討します。					
教科書					
随時資料を配布します。					
参考図書					
随時資料を紹介します。					
備考：履修者への要望					
臨床実践で悩んでいることや疑問に思ったことを受講生と講師で共有し、検討する機会とする予定です。日頃の疑問や実践の成果などを持ち寄り、皆でディスカッションし情報交換とともに解決の糸口を探しましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
地域・老年期リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
木村 菜穂子 ・ 渡邊 豊明					
実務経験のある教員					
木村 菜穂子：介護老人保健施設で理学療法士として勤務経験のある教員が、高齢期にみられる特性を講義し、そのリハビリテーションについてディスカッションを通して教授する。					
渡邊 豊明：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、高齢期における認知機能の特性や生活行為の特徴を講義し、そのリハビリテーションについてディスカッションを通して教授する。					
授業概要					
地域リハビリテーションという幅広い概念の中で、特に高齢期を対象としてその身体・精神面での特性を知り、包括的なリハビリテーション支援を必要とする人々への援助方法などを学修する。					
学習到達目標					
①高齢期にある人々の身体的・精神的特性を学修し、その人々に対するリハビリテーション支援の必要性と具体的な支援方法について考えることができる。 ②健康促進と予防的観点から、地域におけるリハビリテーションを運動機能面と認知機能・生活行為の面から考え、自分の考えを発表することができる。					
授業形態					
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	木村	運動機能に関する視点から－老化とは	老化とは何か、高齢期に頻繁に見られる特性について学習する。		
2	木村	運動機能に関する視点から－運動機能・感覚機能の老化	高齢期にみられる、運動器・感覚器の変化について学習する。		
3	木村	老年期のリハビリテーション－運動器へのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、運動器へのアプローチを中心に学習する。		
4	木村	老年期のリハビリテーション－予防的観点からのアプローチ	高齢期に起こる身体的変化を元に、高齢者に対するリハビリテーションについて、予防的観点からのアプローチを中心に学習する。		
5	渡邊	認知機能と生活行為に関する視点から－認知機能の特性	高齢期にある人々の認知機能の特性について、最新の知見を学修し、リハビリテーション支援の必要性について考察する。		
6	渡邊	認知機能と生活行為に関する視点から－生活行為の特徴	高齢期にある人々の生活行為の特徴について、運動機能・感覚機能・認知機能の低下と関連づけて理解し、リハビリテーションの必要性について考察する。		
7	渡邊	地域における、認知機能に対するリハビリテーション	地域における、認知機能に対するリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。		
8	渡邊	地域における、生活行為向上のためのリハビリテーション	地域における、生活行為向上のためのリハビリテーションに関して、具体的な実践例について学修し、その意義を考察する。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
レポート	参加貢献度				
80	20				
課題（レポート等）（80%）、授業への参加貢献度（20%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
（予習）事前に参考図書を指定しませんが、社会情勢に関心を持ち、マスメディア等からの情報収集に努め問題意識を持って講義に臨んでください。（約2時間） （復習）講義後は、配布資料をもとに講義内容を振り返り、課題に取り組み、学修内容を臨床での実践に活かしてください。（約2時間） （1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
講義の中で課題作成のためのフィードバックをディスカッションという形でを行います。提出されたレポートに関してはメールなどでフィードバックすることもあります。					
教科書					
随時資料を配布します。					
参考図書					
講義中で提示します。					
備考：履修者への要望					
ご自身の日々の実践をもとに、地域におけるリハビリテーションの可能性について、一緒に考えてみましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
精神機能系障害リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
横山 剛					
実務経験のある教員					
横山 剛：医療機関で作業療法士として勤務経験のある教員が、精神障害分野における作業療法について講義を行う。					
授業概要					
人の一生を概観し、その年代ごとの発達課題を理解する。それを元に治療プログラムとの関連を考察していく。					
学習到達目標					
①精神障害分野のリハビリテーションにおける治療介入の意味の理解ができるようにする。 ②事例を通してそれぞれの理論の具体的な方法の理解ができるようにする。 ③精神障害におけるリハビリテーションの説明ができるようにする。					
授業形態					
講義	質問を交えての講義形式				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	横山	心理社会的発達の理解1	乳幼児期・学童期の心理社会的発達課題		
2	横山	心理社会的発達の理解2	青年期の心理社会的発達課題		
3	横山	心理社会的発達の理解3	成人期の心理社会的発達課題		
4	横山	心理社会的発達の理解4	老年期の心理社会的発達課題		
5	横山	治療的応用1	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）		
6	横山	治療的応用2	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）		
7	横山	治療的応用3	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）		
8	横山	治療的応用4	自身が担当した患者の心理社会的発達課題を治療に応用する（レポート）		
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
80	20				
授業への参加貢献度（20%）、レポート報告（80%）で評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自身が担当した患者について授業の進行に合わせて、心理社会的発達段階に従いまとめてください。（1回の講義につき4時間程度） (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
毎回の授業の中で、質問に応じます。また途中であってもレポートのフィードバックをします。					
教科書					
特になし					
参考図書					
特になし					
備考：履修者への要望					
患者の生き生きとした生活や人生を取り扱おうとするとき、心理社会的発達理論を応用することができますので理解に努めていきましょう。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
生活環境リハビリテーション論	リハビリテーション科学専攻	1	選択	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
廣渡 洋史：作業療法士として総合病院、老人保健施設、訪問リハビリテーションでの勤務経験を有する教員が、生活環境としての地域社会の発展について、OT、PTの役割と未来の可能性について意見を述べるができるよう教授する。					
授業概要					
生活環境は、障害をもつクライアントの生活の再構築を左右する。本講義では、クライアントの日常生活における仕事、余暇、家事、セルフケアなどの生活作業と、個人要因、そして生活環境に焦点を当て、その範囲と概念、影響力について、理論との関連を踏まえて学習する。また、個人的意味と健康促進といった範囲へも広げ、障害のある当事者の生活における権利を守る社会構築や社会の在り方へも話題を広げて、リハビリテーションの社会的使命や将来展望について意見交換をしていきたい。					
学習到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作業に影響を与える環境要因の範囲について理論に基づき説明できる ・行いたい作業に見られる、その環境の意味について、自分の経験を振り返り、発言することができる ・環境に焦点を当てたアプローチの種類について説明できる ・環境に焦点を当てたリハビリテーション実践の論文を検索できる ・文献抄読の資料を作成できる ・生活環境としての地域社会の発展について、OT、PTの役割と未来の可能性について意見を述べるができる ・臨床の疑問とそれに対する今後の取り組みについて意見をまとめ、発表することができる 					
授業形態					
講義	講義、グループワーク、実技（文献検索等）				
授業計画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	廣渡	環境と理論	作業療法士が、環境をどのように捉えるのかについて、理論を通してその見方を学習する。		
2	廣渡	環境の範囲と影響力	環境とは何かについて、対象（範囲）とその影響力について学習する。		
3	廣渡	事例紹介と検討	事例を通して、家族、人、文化、社会、経済、場所、空間、物などの対象範囲と影響力を知る。		
4	廣渡	環境に焦点を当てる（1）	環境の調整・選択・変更、作業遂行分析に焦点を当てながら、実際の作業療法の臨床場面を分析する方法を学ぶ。		
5	廣渡	環境に焦点を当てる（2）	各事例より、作業療法における「環境」に関連する具体的課題をあげ、その課題解決に必要な方策を検討する。		
6	廣渡	環境に焦点を当てる（3）	各事例で、検討された内容についてグループでディスカッションを通して解決の糸口を見つける。		
7	廣渡	発表資料の作成	各事例も含め臨床の疑問から、文献検索、今後の提案までの流れを資料として作成する経験をする。		
8	廣渡	まとめと発表	臨床の疑問から根拠ある実践提案までのプロセスを発表する経験をする。		
成績評価の方法・基準（100%）					
発表	参加貢献度				
60	40				
授業への参加貢献度（40%）、発表（60%）					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
（予習）講義のテーマや内容に関する情報を主体的に調べて下さい。（約2時間） （復習）発表に向けては講義時間外にも積極的に取り組んでください。（約2時間） （1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
講義中でのフィードバックは、ディスカッションの形でを行います。発表内容に関しては発表の場でフィードバックをしていきます。					
教科書					
指定するものではありません。					
参考図書					
講義において適宜文献を紹介します。					
備考：履修者への要望					
生活環境の影響力について知識を深めることによって、臨床においても、環境に焦点を当てた実践や環境を変える取り組みに関心を広げ、リハビリテーション領域の社会的使命と新たな可能性を感じていただけたらと思います。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
応用臨床心理学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
山田 ゆかり					
実務経験のある教員					
授業概要					
病気や障がい、あるいはライフサイクルの各段階での心理的問題に対する臨床心理学的援助の実践について学ぶ。専門的援助においては、病気や障がいの特性だけでなく援助を受ける人の行動やパーソナリティ全体を理解することが重要である。効果的な援助をするための知識と実践能力を高め臨床に生かしていくことを目指す。					
学習到達目標					
臨床心理学的専門援助の基本理論・技法について十分な知識を獲得し、臨床現場で経験する心理的問題への臨床心理学的援助の実践能力を高め、臨床実践に活用することができるようになる。					
授業形態					
講義	教科書・資料の輪読、グループワーク、プレゼンテーション				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	山田	現代医療と臨床心理学	医療領域における臨床心理学の役割、チーム医療を基盤とするメンタルケアの展開について学修する ：教科書 第I章		
2	山田	臨床心理学、医療心理学の基本的問題	臨床心理学、医療心理学の基本的事項について知識を確認し、補うための学修をする ：配付資料No. 1		
3	山田	リハビリテーション領域での問題（2） 問題の基本的理解	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応について学修する ：教科書 第II章、第III章		
4	山田	リハビリテーション領域での問題（3） 問題の検討	リハビリテーション領域で考慮すべき心理的問題とその対応と評価について、グループワークによって学修する		
5	山田	心理アセスメント	質問紙法、投影法について臨床場面での適用と分析の実践について学修する ：配付資料No. 2		
6	山田	事例検討1	事例を提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う		
7	山田	事例検討2	事例を提出し、プレゼンテーションを行い、それに基づいてグループワークにより検討を行う		
8	山田	講義	これまでの学修を通して得たことをまとめ、総括する		
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	事例検討	参加貢献度			
30	30	40			
授業中の討論などへの参加態度（40%）、事例検討（30%）、課題レポート（30%）で総合的に評価する。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
自らの日常の臨床業務のなかで、臨床心理学的援助が有効だと思われるケースについてまとめておく。また、授業で学んだことをまとめ、復習し、前述のケースにどう反映できるかについて考察する。準備のための学修および復習に必要な時間は、毎回4時間程度。（1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
ゼミ形式の授業の中で、その都度フィードバックを行う。					
教科書					
「理学療法士 作業療法士のための治療心理学 患者によりそう行動アプローチ」武田建・中俣恵美・出田めぐみ（著）創元社					
参考図書					
「医療心理学実践の手引き 出会いと心理臨床」 乾吉佑（著） 金剛出版 「医療心理学の新展開 チーム医療に活かす心理学の最前線」 鈴木伸一（編著） 北大路書房 「医療現場に生かす臨床心理学」 菅 佐和子（編著） 朱鷺書房					
備考：履修者への要望					
患者や対人援助サービスの利用者と適切なコミュニケーションをとり、心理的問題への援助をするための基礎的な資質、カウンセリングの素養を身につけ、今後の臨床実践に活用することができるように、授業に臨んでください。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療福祉行政学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
高橋 昇 ・ 木村 菜穂子					
実務経験のある教員					
木村 菜穂子：介護老人保健施設で理学療法士として勤務経験のある教員が、社会福祉行政（主に高齢者介護）に関して、その歴史と背景・変遷、現状や問題点について講義する。					
授業概要					
【高橋】保健医療行政とは保健医療分野での法令に基づく活動や政策の一連の活動である。その保健医療行政のしくみについて理解するとともに、その問題点についても学習する。 【木村】社会福祉行政（主に高齢者介護）に関して、その歴史と背景・変遷、現状を学習し、その問題点について考える。					
学習到達目標					
【高橋】わが国における保健医療行政について説明でき、それらの問題点について説明できる。 【木村】主に高齢期の介護問題を社会全体で支えるために創設された介護保険制度に関して、理学療法士・作業療法士を取り巻く現状を、その成り立ち、従来制度との関連、介護保険関連職種との連携などを通して理解し、また自分の考えを述べるができる。					
授業形態					
講義	配布資料を用いて説明を行い、質問を交えながら講義を進める。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	高橋	保健医療行政の概要と基礎知識	保健医療行政の意味合い、保健医療の制度と法規の歴史など		
2	高橋	保健制度の仕組み：行政組織	一般衛生行政、保健医療行政、学校保健行政、労働衛生行政など		
3	高橋	医療制度の仕組み	医療制度の概要、医事・薬事に関する法律、医療提供施設、医療従事者の資格、地域医療・介護の総合的な推進、地域包括ケアシステムなど		
4	高橋	保健医療行政に関するその他の事項	病院機能評価、医療安全対策、医療事故防止対策、院内感染防止対策など		
5	木村	福祉行政の歴史・現状および問題点	介護保険制度導入の背景		
6	木村		介護保険制度の実際とその変遷		
7	木村		介護保険制度と障害者総合支援法		
8	木村		介護保険制度の問題点と今後(まとめ)		
成績評価の方法・基準（100%）					
レポート	参加貢献度				
50	50				
【高橋・木村】レポート50%、授業に取り組む姿勢50%					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
【高橋】日頃からテレビや新聞による保険医療行政についての報道に関心を持ち、時事問題について理解する。（4時間程度） 【木村】介護・福祉行政に関して、身近にある事例を通して、疑問があれば明確にしておいていただきたい。（4時間程度） （1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
【高橋】提出レポートを採点し、内容についての感想を個人に連絡する。 【木村】講義中、様々な問題点や疑問に対し、ディスカッションすることで対応します。また、課題に対してメールなどで振り返りを行うことがあります。					
教科書					
【高橋】プリントを毎回配布する。 【木村】資料を配布します。					
参考図書					
【高橋】「社会・環境と健康 公衆衛生学」医歯薬出版、「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂 【木村】特にありません。					
備考：履修者への要望					
【高橋】日頃からテレビや新聞による保険医療行政についての報道に関心を持ち、議論ができることが望ましい。 【木村】講義の中で、自分の考えや意見を積極的に述べていただきたい。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
医療情報学	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
田中 雅章					
実務経験のある教員					
授業概要					
医療分野は根拠やエビデンスが重要である。その根拠やエビデンスは統計から導き出されている。様々な医療情報から意味ある情報を読み取り、その分析解析方法を学ぶ。 また、医療分野はカンファレンスなどでプレゼンテーションの機会が増えてきた。根拠やエビデンスとなる統計データを効果的に表現したスライドが作成をできるように可視化の表現技術をPCを操作しながら習得する。					
学習到達目標					
今日の医療情報の最新技術を理解するとともに、臨床現場でデータの活用ができるように学習する。また、根拠やエビデンスとなる統計知識を習得する。また、医学系研究発表のためのデータ作成の技術を学ぶ。特にデータの可視化を実現するための適切なグラフ表現を習得する。					
授業形態					
講義	本講義ではアクティブラーニングを実践している。また、LMSとデジタルコメントシートを採用している。質問等の回答はLMSを活用して受講者全員へフィードバックする。初回にこのシステムの操作方法について説明する。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授業内容		
1	田中	ガイダンス・学会発表のデモ・EBMの概要	この講義の受講方法についてガイダンスを行う。本講義で採用しているLMSとデジタルコメントシートの操作方法を説明する。この講義で習得してほしい目標の具体的事例として、担当講師の学会発表デモを行う。：教科書 第1章		
2	田中	健康診断における基準値の根拠	健康診断で用いられる基準値はどの様にして決められているのであろうか。基準値の根拠について解説する。：教科書 第2章		
3	田中	標本調査	標本調査について解説する。：教科書 第3章		
4	田中	正規分布	正規分布について解説し、データを使って正規分布のグラフを作成する。：教科書 第5章		
5	田中	箱ひげ図	母集団の分布を表現する箱ひげ図について解説し、PCを使ってグラフ作成と検定を行う。：教科書 第6章		
6	田中	介入効果を調べる	介入効果を調べる方法を実践する。：教科書 第7章		
7	田中	介入効果を評価する	介入効果を評価する方法を実践する。：教科書 第8章		
8	田中	相関係数を理解する まとめ	相関係数を理解する：教科書 第11章 授業のまとめを行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
提出物	コメントシート	学習意欲			
40	30	30			
提出物 (40%)、講義への参加・貢献 (学習意欲・講義への参加・発表態度) (30%)、コメントシート (ポートフォリオ) (30%) で評価する。具体的な目標や評価基準はルーブリックに基づく。初回に目標や評価基準となるルーブリック表を示す。					
準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間					
(予習) 次の授業までに調べたり、考えをまとめたりすることを指示するので、しっかり取り組んで授業に臨む。(2時間) (復習) 授業で学修したことを振り返り、次の授業までにコメントシートに入力してオンラインで提出する。(2時間) (1コマあたりの準備学習時間：4時間)					
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法					
デジタルコメントシートに記述された質問などは、LMSを通して受講者全員へフィードバックする。					
教科書					
「医療系のための統計入門」実教出版					
参考図書					
なし					
備考：履修者への要望					
医療の分野で使われる基準値はどの様に決められたのかを学び、理解する。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
研究法演習	リハビリテーション科学専攻	1	必修	1単位 (15時間)	15時間
担当教員名					
* 研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・臼井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史 ：上記の教員は、医療機関等で理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する。					
授業概要					
研究とは何かを理解することを目的に、文献の抄読を行う。文献の検索、抄読、討論の過程で、現在までに何がわかっているか、何を明らかにするかを明確にし、研究方法、過程、研究に関わる諸問題について学習する。					
学習到達目標					
文献抄読を通じ、研究の概要を知る。					
授業形態					
演習	クラス分け方式にて行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	宮津 加藤真弓 加藤真夕美 木村 臼井 横山 松村 山田 齊藤 渡邊 廣渡	論文抄読	(宮津 真寿美) 筋機能障害に対するリハビリテーションの分野を中心に、文献抄読を行う。		
2			(加藤 真弓) 中枢神経障害(特に身体機能障害)に対するリハビリテーション及び介護予防を中心に文献抄読を行う。		
3			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害(特に認知機能障害)に対するリハビリテーションを中心に、文献抄読を行う。		
4			(木村 菜穂子) 高齢者、特に維持期のリハビリテーション分野を中心に、文献抄読を行う。		
5			(臼井 晴信) 循環、呼吸、代謝疾患による障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。		
6			(横山 剛) 精神障害者、青年期にある人の心理社会的発達などに関する文献抄読を行う。		
7			(松村 仁実) 運動機能障害に対するリハビリテーション分野の文献抄読を行う。		
8			(山田 南欧美) リハビリテーション工学に関するリハビリテーション分野及び工学分野の文献抄読を行う。		
成績評価の方法・基準 (100%)					
論文紹介					
100					
論文紹介を行う(100%)。具体的には各担当教員が定める。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。(1コマあたりの準備学習時間:4時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
各指導教員から随時行われる。					
教科書					
なし					
参考図書					
講義の中で適宜示します。					
備考:履修者への要望					
研究指導担当教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション科学研究 I	リハビリテーション科学専攻	1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名					
* 研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・白井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・白井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史 : 上記の教員は、医療機関等で理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する。					
授業概要					
各教員個別の指導により、研究目的や問題のたて方、研究の計画と実施の方法、論文の作成と発表のしかた、研究倫理について学び、研究の基礎的方法論を修得する。					
学習到達目標					
研究の基礎的方法論を修得する。					
授業形態					
講義	クラス分け方式にて行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	宮津 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 白井 横山 松村 山田 齊藤 渡邊 廣渡	基礎的研究方法論	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、研究方法論を学ぶ。研究を実践し、研究で得られた結果等について討論することで、科学的思考過程を身につける。		
2			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進や介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害（特に身体機能障害）の機能障害、活動制限に対するリハビリテーションの効果に関する研究の方法論を学ぶ。		
3			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害（特に認知機能障害）に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法について、事例研究などを題材にその基礎的方法論を学ぶ。		
4			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果に関する研究を中心に、研究の方法論を学ぶ。		
5			(白井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究方法論を学び科学的根拠を持ったリハビリテーションに応用する。		
6			(横山 剛) 精神障害者および健常者の心理社会的発達に関して概観し実践研究の方法論を学ぶ。		
7			(松村 仁実) 身体機能障害に対する運動療法を中心としたリハビリテーションの効果やその評価方法に関する研究を中心に研究の方法論を学ぶ。		
8			(山田 南欧美) リハビリテーション工学を基盤とした、理学療法に関する客観的評価、ストレッチングが生体に及ぼす影響の客観的評価、リハビリテーション機器の開発に関する研究について、その方法論を学ぶ。		
9			(齊藤 誠) 運動器疾患（特に筋骨格系疼痛）のリスクファクターに関連する研究や、リハビリテーション評価、治療効果の検証に関する研究方法論を学び、科学的な思考力を身につける。		
10			(渡邊 豊明) 高齢者の健康増進を目的に、予防的観点から介護・認知症予防に関する研究の方法を学ぶ。		
11			(廣渡 洋史) 手外科領域・手の装具療法などにおけるリハビリテーション分野に関する研究の方法を学ぶ。		
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
成績評価の方法・基準（100%）					
発表	抄録				
50	50				
中間研究発表会にて、抄録を提出し、発表すること。					
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。（1コマあたりの準備学習時間：4時間）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法					
研究構想内容に対する中間研究発表において、内容を公開し、指導を受ける。					
教科書					
なし					
参考図書					
備考：履修者への要望					
研究指導担当教員の指示に従うこと。					

授業科目名	専攻	配当年次 時期	履修方法	単位数 (単位時間)	総時間数
リハビリテーション科学研究Ⅱ	リハビリテーション科学専攻	1	必修	5単位 (15時間)	75時間
担当教員名					
*研究のテーマにより、以下の教員から担当教員が決まる 宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・白井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史					
実務経験のある教員					
宮津 真寿美・加藤 真弓・加藤 真夕美・木村 菜穂子・白井 晴信・横山 剛・松村 仁実・山田 南欧美・齊藤 誠・渡邊 豊明・廣渡 洋史 :上記の教員は、医療機関等で理学療法士・作業療法士として勤務した経験を有する。					
授業概要					
各教員個別の指導により、研究課題(研究疑問、仮説など)、研究計画、研究方法、結果、考察を行い、その研究成果を発表会で口演し、論文を完成させる。					
学習到達目標					
基本的な研究過程を修得する。					
授業形態					
講義	クラス分け方式にて行う。				
授 業 計 画					
回数	担当教員	授業テーマ	授 業 内 容		
1	宮津 加藤 真弓 加藤 真夕美 木村 白井 横山 松村 山田 齊藤 渡邊 廣渡	基本的研究過程	(宮津 真寿美) 筋機能障害の改善を目的とした理学療法・作業療法の効果に関する研究を中心に、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について討論し、論文を完成させる。		
2			(加藤 真弓) 高齢者の健康増進・介護予防に関する研究、または、中枢神経系障害の(主に身体機能障害)の機能障害、活動制限に関連する研究を行い、基本的な研究過程を経験し、論文を完成させる。		
3			(加藤 真夕美) 中枢神経系障害(特に認知機能障害)に伴って生じる活動制限に対するリハビリテーション効果の検討方法について、一連の研究過程を経験を通して学ぶ。		
4			(木村 菜穂子) 維持期高齢者への理学療法士の介入における効果の検討方法について、基礎的な研究方法や研究過程を経験し、論文を完成させる。		
5			(白井 晴信) 運動生理学、内部疾患系障害患者に対するリハビリテーション評価、治療効果を検証するための研究を実施し、研究仮説に対する仮説検証の結果から討論を重ね論文を完成させる。		
6			(横山 剛) 精神障害領域の作業療法の介入計画を実施し、その効果に関して研究論文として完成させる。		
7			(松村 仁実) 身体機能改善を目的とした運動刺激や物理的刺激の効果、またその評価方法に関する研究を行い、基本的な研究過程を修得する。研究で得られた結果等について議論し、論文を完成させる。		
8			(山田 南欧美) リハビリテーション工学を基盤とした、理学療法に関する客観的評価、ストレッチングが生体に及ぼす影響の客観的評価、リハビリテーション機器の開発に関する研究を実施し、研究結果について議論し、その成果を論文として完成させる。		
9			(齊藤 誠) 運動器疾患(特に筋骨格系疼痛)のリスクファクターに関連する研究や、リハビリテーション評価、治療効果の検証に関する研究を実施し、データ分析・解釈などについて議論を重ねながら論文を完成させる。		
10			(渡邊 豊明) 高齢者の健康増進を目的に、予防的観点から介護・認知症予防に関する調査・研究を実践し、その成果や課題を論文にまとめる。		
11			(廣渡 洋史) 手外科領域・手の装具療法の治療に有益な基礎的研究を実施し、その成果や課題を論文にまとめる。		
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
成績評価の方法・基準(100%)					
報告	発表				
50	50				
研究発表会で発表(50%)し、研究論文(学位授与機構に提出する学修成果報告書と同等)が提出される(50%)こと。					
準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間					
授業時間外の学修が必要となる。担当教員の指導に従うこと。(1コマあたりの準備学習時間:4時間)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法					
研究論文内容に対する発表において研究内容を公開し、指導を受ける。					
教科書					
なし					
参考図書					
備考:履修者への要望					
研究指導教員の指示に従うこと。					